

※前半は講演会前に募集した質問、後半は講演会後のアンケートで募集した質問となっています。

※講演会で回答した質問も含んでいます。

※同内容の質問にはまとめて回答しております。

一日の仕事の流れについて

睡眠時間は 5 時間前後(仕事をしていて眠くなったらソファに横になって仮眠を取る)。睡眠障害らしく、まとめて寝られない。だいたい朝の 5 時台に起きて、筋トレをして目を覚ます。

仕事は、前の日に書いた文章を読み返して修正するところから始める。それから「25 分で 500-1000 文字」を目安にひたすら書く。「25 分で区切って仕事をする」ポモドーロ・テクニックを取り入れている(そうでないと飽きる)。

25 分経ったら、そのまま勢いに任せて書くこともあるが、立ち上がって腰を回して軽くストレッチをすることが多い。以前ぎっくり腰になって辛かったのだ。なお、まだ小説を書き始める段階でないときは、プロットづくりに専念する(資料を読んだり、ネタを出したり)。

「リフレッシュはどうするか」という質問もあったが、25 分に一度休むことでリフレッシュになる。

それからまた 25 分のターンを始める前に、テーマ曲を流して「また書き始めるぞ」と気合いを入れるようにしている。テーマ曲に使っているのは、「ファイナルファンタジー7」というゲームで敵と戦うときの「闘う者達」か「更に闘う者達」という曲。長い時間をかけて「この曲を聴いたら仕事をするんだ」という習慣をつけた(パブロフの犬みたいなもの)。

「闘う者達」「更に闘う者達」とともにアレンジが何曲もあるので、飽きないのもいい。

夕食くらいまでそれを繰り返して書いて、6000 文字くらいを目安にして、その日の調子次第で終わらせて、次の仕事の資料を読んだり、漫画原作をやりたいので、その勉強をしたりする。23 時すぎには寝る準備をして、ベッドに入って本を読みながら寝る。

ただし、ものすごく忙しいときは夜眠くなるまで上限を決めずに書き続ける。逆に、前の日の修正に時間がかかる場合や新しいアイデアが浮かんだ場合は、文字数を書くことより直す方を優先する。直すのに時間がかかるので、一日 6000 文字はなかなか達成できない。

発想方法について

自分はそんなにアイデアマンではないので、いつもネタを考えるようにしている。普段から思いついたことをスマホやパソコンのアプリ(iPhone の Apple 純正メモアプリ)にメモして、ある程度溜まったら Scrivener 3 というアプリにコピペして整理する。それを眺めながら、新作のネタを考える。手書きのメモの方がいいという人もいるが、字が下手だし、あとでキーワードで検索できるのでデジタルでまとめた方が向いている。

また、本を読んだり、映画を観たりしながら、「自分だったらこうするな」という観点を持つようにもしている。そこから思いついたネタをメモに取っている。

こういう習慣を身につけていると、なにかの拍子にネタが思いつく体質になる。「ふと浮かんだりする事がありますか？」への答えは「昔はなかったけど、いまはある」となる。

発想したネタを小説にする方法と編集者との関係について

どういう小説を書くかによるが、「胸をえぐるための一番の見せ場」を考えることからスタートする。それはキャラクターだったり、ミステリーのどんでん返しだったり、さまざま。それを「どうやったら最もよく見せられるか？」という観点からアイデアを出して膨らませていく(具体的に書きたいところだが、ネタバレになってしまうため抽象的に書かせてもらっている)。

ある程度膨らんだら、物語の起承転結に当てはめていく。よって、自分の小説は4章構成になることが多い。

4章構成が固まったら、その時点で編集者に相談することもあるし、冒頭1章分の原稿を書いてから見せることもある。このときに「もっとこうした方がいい」とアドバイスをもらって修正することもあるし、「うちでは出せない」とボツになることもある。

小説を一本書ききるためのモチベーションとしては、毎日文字数を Numbers というアプリに記録して表やグラフにしている。段々増えていくことがモチベーションになる。

仕事する場所について

家。デビューしてから少しずつ椅子やパソコンをそろえて、快適な空間にしたから構想を練りやすい。昔はカフェも使っていたが、小説を書きながら叫ぶことがあるのでやめた。また、椅子が合わないと言と首が痛くなって仕事にならないので、やはり家で慣れた椅子で仕事をするのが一番多い。

ただ、待ち合わせなどで時間が空いたときにカフェで書くことはある。

テーマの見つけ方について

普段からニュースを見て「どうしてこういうことが起こるのか」を考えている。また、ラブコメが好きなので、少女マンガ(『花とゆめ』が特に好き)を読みながら「こんな恋愛があったらおもしろい」と考えてもいる。

伝えたいことについて

テーマに関しては、子どもの貧困など「こういう問題がある」と知ってほしいという気持ちはある。ただし、それを知ってどう思うかは読者さんの自由だと思っているので、どんな感情を抱いてほしいかの回答は差し控える。

ただ、基本的に楽しんでもらいたくてミステリーを書いているので、とにかくびっくりしてもらおうことを目指している。

好きな作家について

一番好きな作家はアガサ・クリスティー。いまのところ著作を全部読んでいるのは、(敬称略で)芦沢央、横山秀夫、乙一、逸木裕。

小説を書き始めるタイミングについて

小説ごとに異なるが、考えるだけ考えて、全体のストーリーの流れに問題がなくなったら書き始める。物語も登場人物も、書く前にきっちり決める方だと思う。ただし、書いているうちにもっといいアイデアを思いついたら変える……というより、変えることがほとんど。

アイデアが浮かぶときと、創作活動で大事にしていることについて

作品のアイデアが浮かぶのが多いのは、資料を読んでいるとき、ジョギングしているとき、風呂に入っているとき、食器を洗っているとき。

創作にあたり、普段から気をつけていることは、手を抜かないこと。「この程度でいいか」と思ったものを世に出さないように、気になるところがあったら執筆を中断してひたすら考える。

現実で起こっていることで小説に書きたいことについて

いろいろあるが、特に最近は「インターネットに出回る情報にどう正しく接するか?」「人は信じたいものしか信じないのでは?」の先にある「信じているものだけを信じた結果起こる、信じていないものへの暴力」に関心がある。

ストレス解消法について

ジョギングと筋トレ。あとは小説以外の創作活動(『キン肉マン』のキャラを描いたり、ゲームをつくるためのアプリをいじったり)。

ストレス、締め切りとの付き合い方について

ストレスにやられるとろくな小説が書けないので、できるだけ余裕をもった執筆計画を立てるようにしている。そうはいつでもどうしようもなく追い詰められるときはあるので、その場合はジョギングをして、一旦冷静になる。

自分の経験を小説に使うことはありますか?

あるけど、むしろ少ない(人を殺したことも、殺人事件の捜査をしたこともないので)。ただ、「パワハラを受けて辛かったときの思い」など、根っこにあるものは通じているかもしれない。直接の経験に基づくことは少ないが、間接的に活かすことはある……というか、ほとんどそればかり。

読者にわかって欲しい苦労話がありますか?

特にない。読者さんには、純粋に小説を楽しんでほしいと思っている。自分が苦勞したかどうかは関係ない。

ペンネームはどうやって決めましたか？

「天祢」は本名に違う漢字を当てた。「涼」は知人の名前から拝借。

なぜ横浜市中区の元町を舞台に選んだのでしょうか

『境内ではお静かに』のことだと思うが、主な理由は2つある。

- ①構想を練っていた時期、「ご当地密着小説」というのを書いてみたいと思っていたから。
- ②横浜の元町は日本らしくない街並みで、「ここを神社の巫女さんが歩いていたら絵になる」と思ったから。

今までどのような本を読まれてきましたか？

やはりミステリーが多い。特にアガサ・クリスティー。また、ライトノベルも読んでいて、『スレイヤーズ』には影響を受けた。一時は、ノンフィクションにはまっていた。

仲の良い作家仲間はいらっしゃいますか？

佐藤青南さん、額賀滯さんたちとはグループLINEをつくっている。逸木裕さんとは二人で飲んだりもする。先輩作家では、貫井徳郎さんと深水黎一郎さんによくしてもらっている。

好きな作家さんや音楽は何でしょうか？

作家はアガサ・クリスティー。音楽はL'Arc-en-CielやOASYSを聴いていた(最近は歌番組を見ないので把握しきれていない)。クラシックを聴きながら作業することもある。

どんな時に創作意欲が湧きますか？

おもしろい小説や映画、ドラマを観たとき。刺激を受けて、自分もこういう作品を世に出したい！と思う。

「作品を書く」ということと「プロの作家として生活する」ことの違いとはなんでしょうか？

セールスを出せるかどうか。いくら傑作を書いても、セールスが伴わないと関係者に迷惑がかかるし、次の仕事もなかなかもらえない。プロ作家として生活していくなら傑作を書くことは当たり前で、それをどれだけたくさんの人に読んでもらうかが重要になる(簡単にはできないことだが……)。

①小説家になるまでの経歴や動機について②『葬式組曲』『罪びとの手』のように葬儀をダイレクトに題材にした推理小説は天祢先生以外にあまり見たことがないですが、葬儀を題材にするにあたり何か思惑や考えがありましたか？

①に関して…講演で話したとおり、小説家になろうと思った動機は、ほかにできることがなかったから。経歴は、小説家になれないまま大学を卒業した後、出版業界の小さな会社や、雑誌のライターをしながら投稿を続け、メフィスト賞を受賞してデビューした。

②に関して…これも講演で話したとおり、『葬式組曲』で葬式をテーマにしたのは原書房の編集者から提案されたテーマ。友人に葬儀屋がいなかったら書けなかった。『罪びとの手』は、『葬式組曲』の好評を受けて書いた。

作品原稿を発表するまでに何度くらい加筆修正は行うのですか。

小説により異なるが、加筆修正は何度もする。誰かに見せる前は3回読み返す。1回目は、書くだけ書いて乱れた文章の調整(これが一番時間がかかる)、2回目は調整したことによる矛盾をさがすための読み返し。3回目は、内容よりも表現の精度を高めることに集中する。

作品のストーリーの流れは、閃いた時に全て決めているものですか？それとも少しずつ積み上げて創り上げるのでしょうか？また、閃く瞬間は、どんな場所ですか？

作品ごとに異なるが、まずは「これを書きたい」というシーンを閃いて、そこから少しずつ膨らませていく。最初からストーリーの流れがすべて決まっていることはほぼない。

閃く瞬間はいろいろだが、資料を読んでいるとき、ジョギングしているとき、風呂に入っているとき、食器を洗っているときが多い。

最初に自分で買った本は何ですか？

覚えてないけど、記憶に残っているのは『キン肉マン』の21巻。アニメで見ていた「夢の超人タッグ編」の続きをどうしても知りたくて、お小遣いを持って書店に行った記憶がある。

過去に出たあらゆるミステリーと被らないトリックを、どのように生み出していらっしゃるのですか？

すべてのミステリーをチェックすることは不可能なので、「有名なものと被らなければいい」と開き直っている。もしトリックが被っても登場人物やテーマが違えば完成する小説は違うはずなので、そこまで気にもしていない。

文章を書く動機はなんでしょう？

自分の場合は、パソコンのキーボードをたたいて、文字が紡がれていくことに快感を感じる。夢中になって書いているときは本当に気持ちがいい。

小説を書き始める際に、登場人物の設定(性格や生い立ちなど)をどうやって着想しているのかをお伺いしたいです。

まずは話の都合に合わせて、性別や年齢、性格を設定する。それだけだとご都合主義だし人間味がないので、講演で話した名前の由来や、どういう人生を歩んできたのかを考えて、自分が書くときに感情移入できるようにしていく。

「謎解き広報課」シリーズが単行本1作目発売から9年ぶりに続刊発売となりました。非常にお訊ねし難いことではありますが、ネタはあるのに続刊が出せないことに対しどのような思いがあったのでしょうか。「悔しい」の一言に尽きる。自分の才能のなさを象徴するものとして、忘れないようにしようと思った。あとは「このネタはほかの小説に使えるかも」と考えていた。

どのように警察の取材をしているのでしょうか。

警察関係の本を読むくらいで、直接取材したことはない。間違いもあると思うが、あまり話を聞きすぎると現実に縛られてしまい、却って書けなくなるかもしれないと危惧してもいる。

少し話は逸れるが、『境内ではお静かに』は「神社ごとにしきたりが全然違う」と知ったので、敢えて複数の神職さんに取材させてもらった。

苦しくて眠れない夜はありますか？

ある。自信作が評価されなかったときや、ボツにされたときが多い。ただ、睡眠障害の傾向があるので、悔しいのか、単に眠れないのかわからないときがある。

申し訳ないことに著作を拝読したことがないのですが、先生の著作で最初に読むならおすすめの作品は何でしょうか？

社会問題を扱ったシリアスな小説がお好みなら『希望が死んだ夜に』。明るいノリのもステリーが好きなら『境内ではお静かに 縁結び神社の事件帖』『謎解き広報課』。本格もステリーが好きなら『彼女はひとり闇の中』。

先生は神社によく行かれますか？行くとしたらどちらの神社に行くことが多いですか？また、信心ゼロの人物も描かれていますが、先生自身は神様を信じてらっしゃいますか？

書店さんに挨拶で地方に行った際、近場の神社に参拝して御朱印をもらってることが多い。よく行くのは近所の神社。自分自身は無神論者だが、参拝するときはその神社に祀られている神さまに心の中で話しかけたり、お祈りしたりしている。

老いてからの生きがい探しのポイントは？

まだ45歳なのでわからないが、この前、書店に行ったら89歳のおばあさんと話をする機会があった。肌がつやつやで足腰がしっかりしていて、スマホもスマートウォッチも使いこなしていた。なんにでも好奇心を持って新しいことを覚えようとする生きがいを持てるのかもしれないと思った。

悲しい時の乗り越え方は？

自分は乗り越えるのが下手なので、ひとまずジョギングをして悲しいことから意識を逸らす。また、できるだけ口にしないようにして記憶が薄れるのを待つ(完全に忘れることはできないので)。

たくさんあるジャンルの中で、なぜミステリーを書くようになったのか？

子どものころ、『アクロイド殺し』を読んであまりに驚いた感動が忘れられなかったから。

物語の創作とAIの活用について、どの様に思われているか？

いまのところ、AIに独創的な物語がつかれるとは思えない。AIの進歩にブレーキがかかってきたらいいし、まだもう少しは人間の方が優秀な時代が続くと思う。

ただし、自分はAIを使っていて、文章や台詞を考えてもらったりしている。それがそのまま使えることはほとんどないが、ブレインストーミングになっていいアイデアが浮かぶことはある。いまのところ、話し相手のような扱いである。

先生にとってのミステリーの醍醐味は？

「びっくりさせてくれること」。この一言に尽きる。

ヒット作を生む秘訣は？普段行っている事は？

そういう秘訣があるなら、自分が知りたい(笑)。

普段行っていることとしては、売れたもの、おもしろいと思ったものに対して「なぜ売れたのか」「どうしておもしろいのか」を考えるようにはしている。しかし、あまり影響されすぎるとは余計なことを考えて書けなくなるので気をつけてもいる。

書く内容が尽きないコツ、作家になられてから大きく変わったこと、ずっと変わらないままのことは？

- ・書く内容が尽きないコツ…そんなにアイデアマンではないので、いつもネタをさがし続けること。
- ・作家になられてから大きく変わったこと、ずっと変わらないままのこと…変わったことは、「おもしろい本を書いても売れないと次の仕事につながらない」とわかったこと。変わっていないことは、なんのかの文章を書くのが好きなこと。

好きな本は何ですか？

乙一の『暗いところで待ち合わせ』

オンとオフの切り替えはどうされていますか？オフはどのように過ごされますか？

オンとオフの切り替えは、あまりうまい方ではない。なんのかの、いつも小説のネタを考えている。休みの日は、掃除とか読書とか、やりたいことを列記して、それを一つずつつぶしていくのが楽しい。

新作創作の秘訣は何ですか？

「このネタを披露したら世間が驚くに違いない！」「胸きゅんするに違いない！」などという読者さんの反応。

この賞(またはランキング1位)がとれたら嬉しい！と思うものはありますか？また意識することはありますか？

もらえる賞はなんでもほしい。でも、それを意識すると読者さんに見透かされる気がするので、例えば「直木賞の候補に残りそうなタイプの作品」と方向性を決めることはあっても、賞レースに残ること自体は、あまり意識しないようにしている。

個性的なキャラクターが多く登場しますが、実在のモデルはいますか？

いないが、俳優さんをイメージして書くことはある。一度、身近な人をイメージして書こうとしたが、その人の印象が強すぎてうまく書けなかった。

各作品のテーマはどこから発見してくるのでしょうか？また執筆時間はどのように確保しているのでしょうか？

テーマは、ニュースを見たり、本を読んだりしているうちに自分が興味を持ったことに関して、「どうして興味を持ったんだろう」と考えているうちに「こういうことを書きたいのか」と気づくことが多い。

執筆時間は、なにもない日はいくらでも捻出できるが、書店さんに行ったり、移動が多かったりする日はノートパソコンを持ち歩いて、合間合間に書いている。以前はポメラという持ち歩きできるワープロを使っていた。でもポメラは前の文章を直すのが難しいため、使いこなせなかった(使いこなせる人を尊敬している)。

エッセイや短い原稿なら、電車移動中にスマホで書くこともある。

作家という職業の社会的意義は何ですか？

自分は「ほかにできないことがない」と思って小説家になったので、あまり意義を語る資格はないかもしれない。ただ、講演で話したとおり、「フィクションでしか伝えられないもの」はあると思っているので、そういうことを伝えるのが意義と言えは意義かもしれない。

一方で、「難しいことを考えないで、ただ楽しんでほしい」という気持ちもある。

物語を創るのと歌の作詩をするのとは同じですか？

作詞はしたことがないのでわからないが、違うと思う。作詞は、短いフレーズで伝わるようにしなくてはならないので。

小説家を志していた頃の自分にアドバイスできるとしたら何と声をかけますか？

「もっとたくさん本を読んでおいた方がいいぞ！」

「わかりやすさ」と「書きたいがまま」とはどのような比率を目指していますか？

基本的に凝った文章ではなく、わかりやすい文章を書くことを目指している。そのため、「わかりやすさ」を最優先している。

小説家になろうと思ったきっかけは？

22、23 歳くらいとき、就職活動をしていたらほかにできそうなことがなかったので小説家になるしかないと思った。

プロットを作るときに気をつけていることは何でしょうか？

キャラクターの感情の流れが自然であるようにすること。講演で話したとおり、プロットにハートマークを打つようになってからだいぶマシになったが、まだ発展途上だと思っている。

「胸をえぐる物語」とは感動する物語ですか？それともとても悲しい物語のことでしょうか？

感動する、泣く、引きずる、人生観が変わる等、「読んだ人にそういう影響を与えたい」という意味で使っている。

ご著書を拝読し特に胸をえぐられたのは、虐げたり虐げられたりする描写でした。言動や心情という抽象的なものは取材や調査が難しく思われますが、どのように理解を深め文章にしていますか？

登場人物に感情移入して、虐げたり虐げられたりする人になりきって書くようにしている。

何故作家への道を歩んだのですか？子供の頃からの読書習慣多少は関係ありますか？

作家になろうと思ったのは、ほかにできることがなかったから。また、子どものころ『アクロイド殺し』を読んで衝撃を受けてミステリーが好きになり、ずっとミステリーを読んできた。その影響は大きい。

以下は、講演会のアンケートでいただいた質問です。

好きな場所(海外)

スペインのカナリア諸島。観光地でまったりできそう。

また横浜市を舞台にした作品をつくって欲しいです。市内で舞台にしたしたい場所がありますか？

具体的な場所はないが、『境内ではお静かに』を書く際に横浜について調べて得た知識で、歴史関係で書きたいと思っているネタはいくつかある。

SNS、ネット情報へのつきあいかた

自分も模索中。SNS は宣伝用と割り切って、あまりほかの人の発信は見ていない。見ていると時間を取られるし、よくも悪くも感情を乱されることが多いので意識して距離を置いてみる。

著作は女性主人公が多いように思ったが理由はありますか？(少女マンガがお好きなことと関係がありますか？)

少女マンガが好きなことは、間違いなく関係していると思う。また、自分の子ども時代のことをいろいろ考えてしまって、少年を書くのが苦手という事情もある。一方で、オジサンを書くのは割と好き。

デビュー以降「動機」にこだわられている印象がありますが、何か理由はお有りでしょうか？連作短編を好まれている印象ですが、講演内の「起承転結」と関係があるのでしょうか？

動機は、ほかの作品と被りにくいことと、自分自身がホワイダニットが好きなのもあって書いている。連作短編は、実は特に好きではないが、一時はそういう依頼が多かったので書いていた。

「私のこの本は絶対に読んでほしい」という一冊があればぜひ！全部といたくなるかもしれませんが！

シリアス系が好きなら『希望が死んだ夜に』、ラブコメ系が好きなら『境内ではお静かに 縁結び神社の事件帖』。

以前のインタビューに「マラソン」とありましたが、今も走ってますか？(ちなみに私は筋トレが長続きしません)もし走っていたらですが、続けるコツはなんですか？

「マラソンではなくジョギングかな？」と思いつつ答えると、いまも週に1、2回、多いときは4回以上走っている。走っている間はしんどいので、音楽を聴きながら走っている。クラシックや洋楽などいろいろ試したが、アニメの歌が一番テンションが上がるのがわかってからはアニソンばかり流している。筋トレも、音楽を流しているとしんどさが紛れて続くかもしれない。

FF7のサントラいいですね

最高だと思う。

合わない編集担当者をチェンジしたり指名をすることはできないのでしょうか。

チェンジの願いはできるが、出版社側がどう思うかわからないのでリスクが大きい。自分の場合は替えてもらったことが何度かあるが、「うちの●●と喧嘩するなんて」と信用をなくし、仕事が来なくなったことがある。逆に、ほかでも問題を起こしている編集者を替えてもらったときは編集長から謝罪を受け、新しい担当もつけてもらえた。

スランプの抜け出し方などありましたら、教えていただくと幸いです。

抜けようがないので、「いまはだめなとき」と割り切ってだめなときなりに最善を尽くし、状態が上向くの待つ。

物語の作り方を確立させるまでに参考にした書籍等あれば教えてください。

デビューしてしばらくしてから読んだのは『小説講座 売れる作家の全技術 デビューだけで満足してはいけない』『ミステリーの書き方』『ライトノベルを書く!: クリエイターが語る創作術』。最近読んだのは『「感情」から書く脚本術 心を奪って釘づけにする物語の書き方』。

小説家デビューする前はどんなお仕事をされていたのですか？

一番長かったのが雑誌のライター。

最近のラノベ・アニメは妙に長いタイトルが多いですが、そういうのをつけてみたいと思いますか？

個人的には短い方が好みだが、内容に合っているなら長いタイトルをつけたい。

①プライベートで見かけた時は「声をかけてもらいたい」or「スルーしてもらいたい」or「小さな声で応援してます」のどの対応が好ましいですか。②トークショー形式でお話するとしたら相手はどんな人がいいですか

①…汚い恰好をしていることが多いので、見なかったことにしてほしい。

②…こちらが気を遣わなくても、勝手に盛り上げてくれる人。

「希望が死んだ夜に」で城戸(不夜城)に電話が繋がらなかったのはなぜでしょうか。(P269)

作者が答えるのは野暮なので、ご想像にお任せします。

数ある小説のジャンルの中でなぜ推理小説を選んだのですか？

子どものころ『アクロイド殺し』を読んだ衝撃を忘れられなかったから。

影響を受けた作家はいらっしゃいますか？創作活動の範囲を広げてドキュメンタリーor 現代小説に巾を広げてマルチライター目指すことは？可能？

一番影響を受けているのは、間違いなくアガサ・クリスティー。マルチライターを目指すことは、努力すれば可能だと思う。かくいう自分も、小説以外の仕事もやってみたい。

先生のご出身、育ったところはどこですか？横浜でない場合、子供の頃に横浜へはきていらっしゃいましたか？

引っ越しが多かったので、出身がどこかと訊かれると困る。ただ、川崎市に住んでいる期間が圧倒的に長く、この街が故郷のようになっている。横浜へは、あまり行ったことがなかった。

続きを書きたい作品はありますか？・自分の書いたキャラクターで好きな、気にしている上位5人を教えてください。

続きを書きたいのは、デビュー作の美夜シリーズ。セールス不振で商業ではできないので、同人誌で完結させたい。

好きな、気にしているキャラは、たくさんいるので5人だけ決めるのは難しい。ただ、自分を悲願の小説家にしてくれた『キョウカンカク』の探偵役・音宮美夜には格別な思い入れがある。

ミステリー推理小説以外にも読んでいる本はありますか？また、実際に作品作りの参考にしたものはありますか？

ミステリー以外だと、時代小説が一時期ものすごく好きだった。また、マンガはよく読んでいる。作品作りの参考にした本は『暗いところで待ち合わせ』。「どこでなにが起こって、どういう展開になるのか」を書き出して構成を研究した。

小説を書く時に取材をされていると仰ってましたが、今までで楽しかった取材、苦しかった取材はありますか？どの作品の取材でしょうか。

基本的に、自分が知らない職業の人の話を聞くことが好きなので、苦しかった取材はない。楽しかったのは『境内ではお静かに』を書く前に取材させてもらった神社。最後まで書き終えてから友人の友人が神職であることを知り、ご縁を感じながら話を聞かせてもらった。

自分の限界を破る方法をお聞きしたいと思いました。

根性……かな？(まだ自分の限界を感じるほどがんばれていないと思っているので、よくわからない)

10代から、小説を書きたいと思っていたが他の事で忙しいと理由づけして50代になってしまいました。今さらですが、これから小説を書くアドバイスを下さい。

長編でも短編でも、とにかく一作書き上げること。未完の傑作より、完結した駄作を書く方が得るものがある。それをもとに、次の小説に取り組むようにする。

仕事上のオンとオフは分けていますか？分けている場合、オフはどのように過ごされていますか？

オンとオフの切り替えは、あまりうまい方ではない。なんのかわりで、いつも小説のネタを考えている。休みの日は、掃除とか読書とか、やりたいことを列記して、それを一つずつ潰していくのが楽しい。

文章を書くのが苦手です。長く書こうとするとブツ切りになってしまいます。どうすればスムーズに文章を書く事ができますか？

あまりに長い文章は読みづらいので、むしろ適度に短い文章を積み重ねるようにして書いた方が、読みやすくなると思う。また、小説にかぎらず好きな人の文章を真似して書いてみると、コツがつかめると思う。

取材方法について教えてください。取材旅行とかは行かれますか？

取材は、あらかじめ訊きたいことを大量に用意しておく。そのすべてを訊ねる必要はないが、「訊きたいこと」を大量に用意するために相手についていろいろ調べているうちに、小説のネタになることが増えてくる。

取材中は、必ず相手に断ってから録音をして、メモを取ることも話聞くことに集中する。相手の話を訊いているうちに新しく訊きたいことがでてきたら、事前に用意した質問でなくても訊ねる。あまり時間をかけては相手に迷惑だし、お互い集中力ももたないので、長くても1時間半程度で終わらせるよう時間配分にも気をつける。

取材旅行には、行くこともあるが、最近は ZOOM や LINE 電話のことも増えている。『謎解き広報課』を書く前は、北は岩手県、南は宮崎県まで行って話をうかがった。

すごい作家と思われる作家は何がすごいのか？

執筆速度、どんでん返しの妙、設定の斬新さなど、なにか一つでも秀でたものがある作家を、自分は「すごい」と思う。また、「とにかくすごい」としか言えない、すごさを言語化できない作家もいる。そういう人には敵わないと思ってしまう。

小説家を志してからデビューするまで、デビューすることを目指すのを辞めなかった、あきらめることのなかった理由はなんですか？

支えてくれる人がいたから。一度最終選考に残ってから、何年も一次選考すら通らなかった。支えてくれる人がいなかったら、その時点で挫折していたと思う。

どうしても、気分が乗らない場合、書けない場合、誰かに助けを求めることはありますか？

ある。でも、結局は自分で気分を乗せるしかないので、ジョギングをして気分転換をしたり、最低限の仕事をしたりして、気分が乗ってくるまでやりすごす。

普段の読書量について、仕事をしながら読書量を増やすのは大変だと、自分が感じていて、工夫されていることがあればお伺いしたいです。

電車を待っているときなど、隙間時間にも本を読むようにしている。また、夕切前以外、夜 11 時以降は仕事をやめて読書時間……という風に、読む時間を確保している。最近は、外では●●、家では△△、という風に読む本を分けて併読しているが、始めたばかりなのでうまくいかどうか分からない。

ラブコメや少女マンガがお好きとのことでしたが、なぜお好きなのですか？また特に好きなラブコメ作品や少女マンガはありますか？自分の作品のキャラのイラストはイメージと合う合わないはありますか？

ラブコメや少女マンガが好きな理由は、胸きゅん展開が好きだから。好きなラブコメ作品は、「花とゆめ」で連載していた『墜落 JK と廃人教師』。

自分の作品のキャラのイラストに関しては、基本的にイメージに合わせて描いてもらっているので「合わない」と思うことは少ない。ちなみに『境内ではお静かに』は、連載第一話でイラストレーターの友風子さんからいただいたイラストからイメージが膨らんだ。これは、こちらがイラストに合わせたパターン。

事前のアンケートでも質問しましたが、好きなミュージシャンは誰でしょうか？自分はポウイ世代で、今はビーズをヘビロテ熱唱しています(笑)

日本のミュージシャンだと L'Arc-en-Ciel が好きで、昔はライブにも行っていた(いまは自分の体力がもたないので行ってない)。

お酒は飲めますか？

がんばれば飲めるけど、アルコールに弱いのですぐに酔っ払う。

会計ミステリーを書いてほしいです。

数字に弱いので無理(ごめんなさい)。

タイトルのつけ方をもうすこし聞きたかったです。

タイトルは、あまりセンスがないのでいつも最後まで悩む。とりあえず考えるだけ考えてひたすら列記して、編集者に相談して決めている。

同性・異性どちらが書きやすいですか？

異性。同性は、自分のことを踏まえて、いろいろと余計なことを考えてしまうため。

今まで読んだ中で、一番心に残った本は何ですか？ミステリーを書こうと思ったのはいつですか？

一番心に残った本は、ミステリーだと『アクロイド殺し』。それ以外だと、任天堂の社長だった岩田聡氏について書かれた『岩田さん 岩田聡はこんなことを話していた。』。

ミステリーを書こうと思ったのは、小説家になろうと決意してしばらくしてから。それまでは、ミステリーが好きだし、書きたい気持ちはあったが、「ラノベの方が向いているかも」と思ってラノベを書いていたこともある。ただ、一番テンションが上がるのがミステリーを書いているときだったので、それ一本に絞った。

刑務所や少年院で仕事をしてきました。知りたいことがあったら鑑別所にどうぞ。

ありがとうございます！ 連絡先を知りたい(笑)。

何故、ミステリー作家を目指しましたか？きっかけは？

もともとミステリーが好きだったし、執筆して一番テンションが上がるのがミステリーだと気づいたことがきっかけ。

都筑区 青葉区を舞台はどうですか

なにかきっかけがあったら書いてみたい。

ルビをふる基準について知りたいです。

自分の場合は、難読語や特殊な読み方、固有名詞初出のときはルビを振り、それ以外は担当編集者の判断に任せている。

作家になるために日々行っていることと実力のつけ方

どんなに忙しいときでも一行でもいいから文章を書き、少しでも本を読み続ける。

同世代のミステリー作家さんでライバル視している方はいますか？また仲が良い方はいらっしゃいますか？

基本的に全員がライバル。同時に、友人や仲間だとも思っている。ほかの人が賞を取ったり、ベストセラーになったりしたら嫉妬する一方で、祝福する気持ちもある。仲がいいのは、前述のとおり佐藤青南さん、額賀澤さんなど。

好きなアニメを教えてください。

「無責任艦長タイラー」と「花咲くいろは」。最近観ているのは「ダンダダン」。

小説だけで生活ができるようになるまでにやってきた仕事やアルバイトを教えてください。

雑誌や編集プロダクションのライター、DTP オペレーター(書籍、雑誌の誌面データをつくる仕事)

好きな出版社を聞いてみたいです。

光文社と文藝春秋(特にお世話になっている編集者がいるので)、祥伝社(今回の講演会に担当編集者が参加してくれたので)

小説のアイデアや話がでてこなかった時どうしているか、トラブルやイヤな事が起きた時どうやって気持ちを切りかえているか ・悪口を言われたときのスルーする方法を教えてください。また落ち込んだときの立ち直り方

・小説のアイデアや話がでてこなかった時どうしているか…ほかの人の本を読んだり、映画やドラマを観たりして、ひたすら考える。

・トラブルやイヤな事が起きた時どうやって気持ちを切りかえているか…切り替えが苦手な方なので、現実逃避でジョギングをしたり、小説以外の創作活動をしたりしている。

・悪口をいわれたときのスルーする方法をおしえていただきたい…これもスルーするのが苦手だが、口にするとうちに刻まれて忘れられなくなってしまうので、なるべく口にしないようにして別のことをして記憶が薄らぐのを待つ(完全に忘れることは無理なので、あきらめている)。

・おちこんだときのちなおり方…「トラブルやイヤな事が起きた時どうやって気持ちを切りかえているか」に同じ。

作家と編集者との力関係は変わることがありますか ・もしあるとすれば、どんなタイミングが多いと思われますか？ ・編集者出身の作家はどの程度いらっしゃいますか？

作家がものすごく売れたり、逆に売れなくなったりといったことで、力関係というか、態度を露骨に変える編集者はいる。編集者出身の作家は、どの程度いるかはわからないが何人か知っている。

作家先生の立場から電子書籍についてどう思われますか？ 個人的には電子書籍は紙に比べて作品が軽くなってしまうように思います。紙の本という存在があり、それを手に取り読むことによってこそ作品としての価値が(重み)わかると思います。

電子書籍を目の敵にするつもりはないが、ミステリーはどうしても紙で読むことが多い。伏線の確認をするとき、ページを戻るのが便利なので。一方で、電子書籍は持ち運びや保存に便利なので、両方ともうまく残ってほしい。

ご自分の「ごほうび」というと何かありますか？

ガジェットオタクなので、高い Mac や iPhone を購入すること。

何を食べていますか？小学生の頃の夢は？

・何を食べていますか？…食べ物への関心はそれほど高くないが、夏は近所の農園で売っている梨を必ず食べている。

・小学生の頃の夢は？…小学校のころは小説家になることだった。それが段々と「無理だ」と思うようになって一旦あきらめて、いろいろなりたい職業が変わった末に、やっぱり小説家になった。

作品が終わった後の「登場人物その後」みたいなものって想像することってあるんでしょうか？それとも物語が完結した段階で終わるのでしょうか？ ex.大人になったネガちゃんとか!!先生が個人的に好きな自身の作品のキャラを教えてください(理由も)

「登場人物のその後」を想像することはあるが、読者さんが考える自由を奪いたくないので、基本的には公表していない。『希望が死んだ夜に』のネガがどうなったのかも、ご想像にお任せしたい。

前述のように、好きなキャラは決められないが、特別な思い出があるのは『キョウカンカク』の音宮美夜(自分を小説家にしてくれたキャラなので)。